

大寶

和漢朗詠集

船名海

上



大寶傳漢詩集上之卷目錄

春

立春 しゅん 早春 そうしゅん 春興 しゅんきょ 春夜 しゅんや 春日 しゅんじつ

三月三日 しゅがつさんじつ 付批 つひ 暮春 ぼしゅん 三月盡 しゅがつじん 田二月

鶯 うい 霞 うす 雨 あめ 梅 うめ 柳 やなぎ 花 はな

躑躅 ちつじく 款冬 くわんとう 藤 ふじ

夏

更衣 かひかへ 首夏 くびげ 夏夜 なつや 端午 たんご 納涼 なつぞら

晚夏 おそなつ 花摘 はなむし 蓮 れん 郭公 くわくこう 螢 へい

蟬 せみ 扇 あふぎ

秋

立秋 しゅうきゅう 早秋 そうしゅう 七夕 たなばた 秋具 あきぐ 秋晚 あきふし

秋夜 あきよ 八月十日 はつがつじゅうじつ 付月 つぎ 九月九日 くがつきゅうじつ 付菊 つぎく

九月盡 くがつじん 如帝宅 にうていぢやく 萩 はぎ 蘭 らん 橙 だいだい



(春) 立春

迎春潜用不结芳菲之候
 名春希为露之恩
 池冰东顾同春
 柳雪初消先物池有波文水鱼开
 七日不知谁才去春凡春
 信氣公
 在
 居
 白

大寶傳漢朗詠集上之卷目錄終

雪

初冬

霜裁

冰

冬

(冬)

紅葉

冰春

冬夜

付

霰

歲暮

鴈

佛名

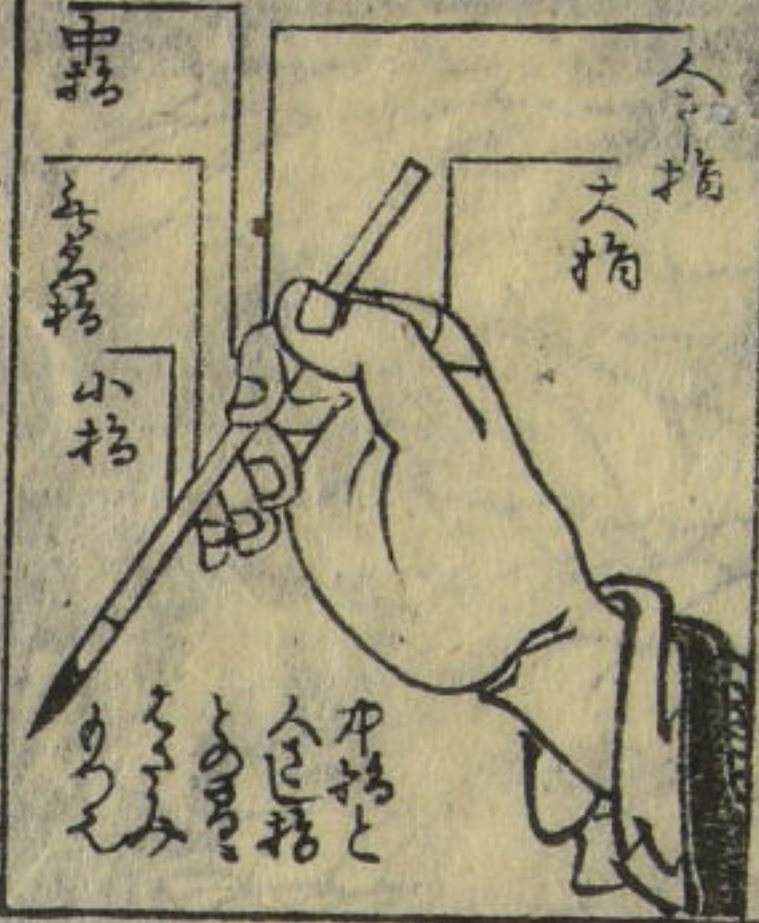
爐火

霜



筆道秘傳

○筆の持ち方の事
まの支さへ袖えとすは
まのびり二すまのびり



頭指の二指の指の指
と二指の指の中指の
指の指の指の指の指
指の指の指の指の指
指の指の指の指の指
指の指の指の指の指

あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ
あつがし初より二つ

心向流文を秘傳の事
袖のりくじりし
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる

早春

氷消地意漸短
先遣の報消息
東岸西岸の柳
枝條柳眼低
白猿元

枝の梅用落已異
紫雲嫩蕨人
氣香同松竹
後坊氣の
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる
しるしるしるしるしる

良春 之 忠 卷 元 猿 白 聖 公 初 考 紀 細 云 表 子 正 池 蓮

まはす松のののの
すは年比久世の文珠と
おもにねるるの状にして
さうおもと骨ははら
あつていふは
れめ文珠ののの
八箇月のわが
たのののの
けくして



筆法之事

陽 陰
夏 秋
真表 植裏
錦帳 曉開雲母殿
白珠 秋寫水精盤
空 春 陰
錦帳 曉開雲母殿
白珠 秋寫水精盤
空 春 陰
錦帳 曉開雲母殿
白珠 秋寫水精盤
空 春 陰

三月二首付

春來過也桃花水。云云仙源何處尋
去之善月三胡大碎干花桃李之
感也我君日澤万接之餘也
維遠道塵雜絕書已字而知地
勢思魏文以教風流道志之
謹款中序云云

世

煥燿幸正意國。世字法源似勅重
水成已字初旨源起周年後幾君
礎石運來心竊結。幸海遠道存心
夜為徐溫曾波之眼新嬌曉風
後吹不言之口先嘆
みらるるをよかろく
しれく

規雄 若 辰号 若 ね西 若 維王

紙の巻の事

○夫紙の巻は天竺の法に
 依りて造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 一形に造るるに其の法は
 二形に造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 四形に造るるに其の法は
 五形に造るるに其の法は
 六形に造るるに其の法は
 七形に造るるに其の法は
 八形に造るるに其の法は
 九形に造るるに其の法は
 十形に造るるに其の法は

と云ふは其の法に依りて
 造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 一形に造るるに其の法は
 二形に造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 四形に造るるに其の法は
 五形に造るるに其の法は
 六形に造るるに其の法は
 七形に造るるに其の法は
 八形に造るるに其の法は
 九形に造るるに其の法は
 十形に造るるに其の法は

閏三月

と云ふは其の法に依りて
 造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 一形に造るるに其の法は
 二形に造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 四形に造るるに其の法は
 五形に造るるに其の法は
 六形に造るるに其の法は
 七形に造るるに其の法は
 八形に造るるに其の法は
 九形に造るるに其の法は
 十形に造るるに其の法は

○夫紙の巻は天竺の法に
 依りて造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 一形に造るるに其の法は
 二形に造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 四形に造るるに其の法は
 五形に造るるに其の法は
 六形に造るるに其の法は
 七形に造るるに其の法は
 八形に造るるに其の法は
 九形に造るるに其の法は
 十形に造るるに其の法は

と云ふは其の法に依りて
 造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 一形に造るるに其の法は
 二形に造るるに其の法は
 三形に造るるに其の法は
 四形に造るるに其の法は
 五形に造るるに其の法は
 六形に造るるに其の法は
 七形に造るるに其の法は
 八形に造るるに其の法は
 九形に造るるに其の法は
 十形に造るるに其の法は

陰陽表裏

源 侍 郎 日 之 順 躬 源 侍 郎 日 之 順 躬

とれたかたのまられまゝのあやまきも
かゝりかゝりかゝりかゝりかゝりかゝり

之也

長

更衣

月燈燈の経者端用糸衣常隔年香

白

生衣袂の糸衣者宿讓當花是花餅

若

しものりりふりりなりのちりりりり

之也

首夏

糸衣常隔年香
月燈燈の経者端用糸衣常隔年香
生衣袂の糸衣者宿讓當花是花餅
しものりりふりりなりのちりりりり
ころもころもころもころもころも

獲頭竹葉流花樂階位高敵今夏用

白

若生石面輕衣籠者お池心小是疎

具也

わんやりのちりりりりりりりりりり

明

夏夜

風吹枯木晴天夏月照平沙衣衣衣

白

風生竹葉流花樂階位高敵今夏用

日

貴衣定閑堂度好涼夏朝白月的初

玄納紀

先年の中は糸衣
光陰光陰糸衣
結集糸衣
比那白を後日外
糸衣常隔年香
月燈燈の経者端用糸衣常隔年香
生衣袂の糸衣者宿讓當花是花餅
しものりりふりりなりのちりりりり
ころもころもころもころもころも

中々中々
富不富報者
画筆端先大染
書記進目下
かい決之任幸使
一平入役官者任
以安者手交い交
高札者墨筆端
厚利後海披洋
債益沐先心炎

紫展彩龍尚初月
煥用紫彩清風
存竹枝位應者
海文負人其出
後の歌目私の眼
けらとくはつゆ
郭云

白 浮許 昌在紀 製市蘇延 宣為源 正後良

宛半方その
各皆くは抄抄
恭方金法連堅
榮休幸甚悦大
幸く出遊地友元
手前同苗某誰下
拙我未至是後堂
愛愛別紙之異
所色乃後意貴
意め心易心
沛安氣以安堵

一亭山名暖
な〜あ〜あ〜あ
い〜い〜い〜い
ひ〜ひ〜ひ〜ひ
常火孔
葛藤水
白 浮許

白 浮許 兄 忠公 子王 浮許

切念頃別起入

魂眩爰万端一

伴以若家於入

お後討後系念

子速出常格招

玄釋系和容益

振指招法若家

侍希程々事交

殊末麻由々々

快信々然以遊

具於山活斗僅

全帰老在宿以
毎互泊遠而之也
解以事外不顧
然々生於夜更
翌日翌朝今日
吉辰之辰日撰
新電後境普信
遠受道他出来
元服袂袋付之
洞巾佳儀之致子
息也女以善用

扇

盛夏不消言後自無風月短生

裏花月入懐中

あつた初の後唯然枯周未別本

あまれふかたせすしきたあまこよ

りつきの名瓜方をやうやう

あまの川ぬけりせよさうけきく

勢中 備え 勢中 品三 白

秋

立秋

蒲風涼風与美矣誰教計會一時秋

鶏津教回秋文少程為教如映在殿

あまのわしめあはさやうよんねん

う勢のあまの共あまらうまの

うららけよのそかまらうまの

あまのけあまらうまの

早秋

但秋暑也三病上不知秋送二毛来

白 嵐保 行敏 宜能 白

賢才庸智幼稚
亦丈夫亦成人
祖父祖母表親
兄弟姊妹甥姪
從身伯父伯母
叔父叔母子孫
妻妾孫男孫女
婿親族堂兄弟
堂弟堂妹
久愛懷胎懷妊
臨月泄聖降誕

親儀執上進款
幸乘
多拜
配坐
無障
賞味
諸利
品家
精加
依利
儉始

槐花西深影秋地相柔風涼欲夜天
寒景割涉衣為重此涼滑到葉先知
あまのこころはなほあまのこころのねわら
りさけのなはたはたすこころも

七夕

恒幼少年志乞巧竹竿頭上秋線多
二星直垂未叙別緒依之恨未得
明於露涼風飄之勢

露凝前淚珠不落星乞巧粧未成
風涼昨夜秋絲長及明朝淚不禁
去夜更涼露無濕初燭後流月欲清
詞沈激波雖且卷意仍行月歌為蝶
あまのこころはなほあまのこころのねわら
りさけのなはたはたすこころも
あまのこころはなほあまのこころのねわら
りさけのなはたはたすこころも

恒男 之母 九人 昭輔 品三 公ね 材 白 家記 五七安

陸市亭芳茂
 南抄花抄中
 初ら信ら都ら
 食者口の香原
 無ね澤邊茂
 道通后途中
 性来性ま意
 海淡不斗不
 思家車喧喧
 關津抄務茂
 堂之換日頃

きつち中しうのたのたすくま
 りのりよまゆのあまはよまくま

秋夜

杖束長く母眠天高秋く秋燭
 宵蟬彩霜く晴ぬ打窓声
 暎く待波初去使秋く星の秋曙天
 燕子橋中あ有来杖束長一人長
 蘇州露源人定後秋宵雲五月の初

之也

白

同

同

二お登

平生平日意
 歳安可慎可
 お當つる意を
 分る解意や
 備又時候一年
 四季春去来
 夏冬火秋を
 金冬去来あや
 是四季土用
 有則立行お
 也又二十四

蘇州露源人定後秋宵雲五月の初
 あしひよのやあまのたれあまのたれ
 かなくしあまのたれあまのたれ
 ひつちのまこつあまのたれあまのたれ
 りつちのまこつあまのたれあまのたれ

名有 九人 恒身

八月十六夜 付月

秦田之干餘星輝く水浦澄家く三
 十六宮沈く粉鏡
 織綿機中已辨お思く字榜家帖と

後案

前七十二候
 又正月始雪
 未至氣未至
 二月入夜更
 着近日暖氣
 三月未至暖
 四月未向暑
 為暑之始又
 月之微雨入
 暑晴之六月

俄添然別之勢
 三入夜中初有雪三千里外故人
 嵩山表裏千重雪
 十二廻中無勝於此冬之好
 年於吾家之光
 碧浪金波三入初
 虛自能為紫凝
 紀納
 日
 白
 佳景云

去暑之去用
 入暑之入大暑
 去暑之去殘暑
 強之七月之秋
 暑之入八九
 月之始冷之
 第十月之入
 冷時之入
 後之入
 十一月之入
 氣十二月之入

過西竹岩白雲迷松上
 藤中魚藻池便是尋常景
 明玉不如
 金骨清林風落玉連三更
 揚貴北地唐帝志
 月

大正後漢明詩集上

二十五

つ。踏のへ川の付
のる又よた書とた
判のありねるハぬ
あし人舟のねいへ
あつまゝいふたぬ
うまゝあまなま
又いふゝ人まゝ
そのいゝのいゝかへ
いゝ。えい川の付
あまゝいふたぬ
とこえとこゆ

兼葭苑苑推窓
ひまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ

品之菱 妙敏 順弟

九月盡

縦の清函の固難
今五貴の進何
頭目派は深ある
林格とを急難

日 帆

絶とゆり さえ
おびえ おびえ
つゝ。あえ。あえ
ゆらゆら
○奥のあつ川の付
かゝらふ用あつや
○おくのねとま
おひのま書しほ
なまゝいふたぬ

女峯按達白釣糸
やまゝいふたぬ
まゝいふたぬ
まゝいふたぬ
まゝいふたぬ
まゝいふたぬ

言以 里子 登兼

女郎花

花色如無葉信呼
借光只思義最
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ
あまゝいふたぬ

順 照通

率うかの水字

者干年丹本保

通累王年那也

无能万後希遣

古豆亭悲布

盈置盤化又氣

衣見可感堂

佐由阿志楚

不遠紅交苦地是深風言及天

英頰頰林寒有紫紫獨燭水淨無風

洞中清波燭燭如燈上蕭疎錦繡林

外物獨醒松洞色餘波今方獨江考

志うはゆも〜ゆも〜ゆも〜ゆも〜ゆも

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

落葉

名乘字韻生

春玄命霽晴

治遥敏明流

時秋候初解

說刻節言晨

辰宗遠遐通

懸十俱伴侶

借僚倫朝類

流朋共與具

三秋の宮波心長空階を滴葉里の郷

園河在落葉窓涼

秋夜不拂拭為杖案踏梧桐葉長空仍

城柳又槐傍楓落秋悲不到貴人心

梧楸秋中一葉之西空滿鷓鴣背上一

收行之紅淡疎

樵獲生及杖穿朱買信々名法逸

白

日

胤保

言以

之也

正法

白

日

日

順

友奉等輩知云

近親知比鄰

眠睦邇似尋

愛幾庶及周

集參局後這導

數計運般員枚

種籌算量箇孤

形像方姿賢

堅固片象質良

興置業起息致

雄緒少男臣尾

勝捷克兼金易

色周懷該攝

門廉稜柯楞

頼仍依倚階隨

職猶從幹據緣

因寄自資由藉憑

義吉好善快悅

祥福勝姓珍致

能理持淑懿穀

優遊履踏葛雅仙樂

隨流落葉會菊紫澗石飛泉舞雅玲

逐夜光多異苑月每射空水潭林風

あすうはのからえたるうわつしそこの

かまの月志くくくくくくくくくくくく

あはれなるせあきうあはれくくく

鳴村歌

萬里人南去三春雁北飛不知何處

月均古也同歸

為初逐逐源波彭雲秋夢雁引來

四山采山粧雨色五三仍為點雲吟

虛弓難避來拋額於上弦之月懸奇

箭易迷蹤水溢於下海之水急

石飛碧落書青紙集祥鳥其被瑞機

女おそ

吹

五中後

丸人

之也

月

白

劉禹錫

杜荀鶴

後

後

田達音

大正倭漢郎詠集

師持將住須以

用本元基舊花

臺許根守盛森

隅純維清角炭

佐博助祐弼貳

右介亮輔季抄

末梢相遇逢影

陰陰景長益增

倍照光輝富福

阿隈熊藏庫掠

うはまのいのりこころはくたはるも
かくあはれまうくとりそ日ひりさ

平業

霜

三秋存富花初白。夜林霜葉紅。

霜庭

為初秋霜徒壞。文四時冬日氣相年。

白

園是蔓藤或添。孤婦之堪上山深。

感動先侵。皓之鬢色。

玄納紀

君子取深於不。老病辛晚。嘆世。

お世

右白雨全又

亦也香哉歎

氏姓村樹城

備來珍幹家宅

舍屋松待侯

須頭首上正守

尹利稔俊敏

年載歲紀暮裡

名系字終

おく已歎。萬事轉。出初。驚。昔。後。人。
最。積。在。海。客。名。色。秋。暮。花。老。病。苦。
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

玄納紀 品三

雪

曉入梁。雪之苑。雪波。群山。夜。雪。度。公。

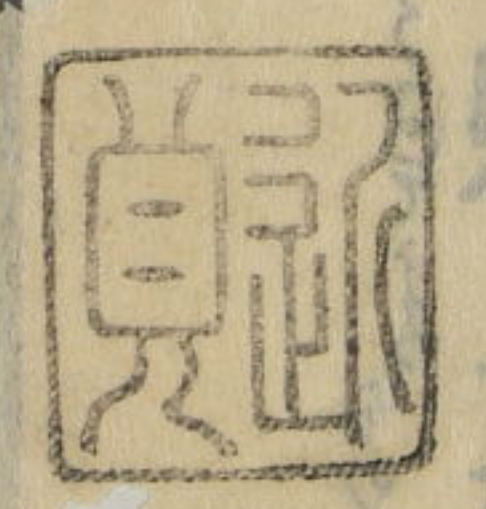
之。揚。月。的。千。里。

浪。沙。漲。三。子。裏。梅。花。用。二。万。株。

親謝

白

五音通
 ア イ ウ エ オ
 カ キ ク ケ コ
 サ シ ス セ ソ
 タ チ ツ テ ト
 ナ ニ ヌ ネ ノ
 ハ ヒ フ ヘ ホ
 マ ミ ム メ モ
 ヤ ヤ ヲ ヨ
 ラ リ ル レ ロ
 ワ



繪入 氏家 育草

全紙三冊

此書は氏家平生つゝのてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を
 ぞとて人をめしつゝよまらるゝるのてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を
 いと幸し書をまたく文字よもてかゝり家流にても居る中より書を
 中うあんせらるゝるのてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を

繪入 消息 十字文 氏家流 全紙一冊

此書は消息文章小入るるてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を
 ぞとて人をめしつゝよまらるゝるのてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を
 いと幸し書をまたく文字よもてかゝり家流にても居る中より書を
 中うあんせらるゝるのてし人御とてかゝり家流にても居る中より書を

